

相談室だより

2012年7月

みさき病院 MSW 緒方

暑い日が続きますね。先日、豪雨災害に見舞われた柳川市にボランティア活動に行ってきましたのでその報告です。

平成24年7月11日から14日に九州北部地方で発生した「九州北部豪雨」、この近辺では柳川市やみやま市が大きな被害を受けました。

2週間後の7月28日(土)、大牟田社会福祉協議会の呼び掛けもあり、ボランティア活動に参加してきました。活動地域は、沖端川決壊した中山地区でした(中山の大藤で有名な場所です)。

被害の状況



(中山地区の冠水した様子)



(堤防が決壊した沖端川)

【想像を超える被害】

午前中は、大正生まれの女性 A さん宅に行きました。広い一軒家でお一人住まいです。泥水に浸かった家財道具の処分が目的でした。お宅に伺うと、畳という畳は全てなく、地面が剥き出しの家でした。わずかに残った8畳程度の板間で、寝起きをされています。幸い A さんはお元気で、自転車にも乗られ、被災後も活発に過ごされていました。しかし、泥まみれとなった家財道具の処分は、高齢の A さんには到底、無理な話でした。私たちは4人で協力し、皿や書物などを屋外に運び出しました。運び出したものは、どれもが A さんの思い出あるもの、生活そのものでした。

【猛暑の中での作業】

午後からは、農家をされていた B さんのお宅に伺いました。生垣や小屋に入り込んだ泥や瓦礫を撤去するのが目的でした。B さんは、被災後 2 週間、コツコツと毎日この作業をされていました。生垣や小屋の到る処に、泥や流木などが入り込み、撤去するには時間と労力を要しました。35 度近い炎天下の作業、しかも土埃が激しい環境での作業は、正直きついものがありました。30 分おきに休憩を取りながらの作業でした。作業中に、B さんが「こんな災害に遭うなんて思いもしなかった。でもこうやって、ボランティアの方々のちからを借りて、またやり直せます。比較してはいけないけど、原発事故のあった福島は、こういった作業すら出来ないですよ」と話されたのが印象的でした。

【ボランティア同士の協働】

この日は、親仁会より私緒方と、くろさき苑の事務松本さん、それいゆ(共立病院系列の施設)の男性スタッフ、大牟田社会福祉協議会の男性スタッフで、大牟田組として活動しました。体力的にはきつく辛い作業でしたが、一緒に汗を流していると、自然に役割分担が出来たり、互いの職場のことを話したりと精神的には随分このメンバーに助けられました。

新しい医療ソーシャルワーカーが配置となりました!!

米の山病院 “坂口真子さん”。元医事課の職員でした。

みさき病院 “山下佐和子さん”。いまやまの家のスタッフでした。

二人とも、「社会福祉士」の資格を有しております。

どうぞ、よろしくお願いいたします!

初めまして! よろしく
いたします!



来る人あれば、去る人あり……。少し病院から離れます。

みさき病院 MSW 緒方は、10 月 1 日より、「吉野地域包括支援センター」に赴任することになりました。米の山病院で 7 年、みさき病院でも 7 年、MSW(医療ソーシャルワーカー)として頑張ってきました。今後は、仕事の場を「地域」に広げて、更に頑張っていこうと思います。包括支援センターでの実践を親仁会 SW 集団や親仁会にフィードバックできるよう、また地域の課題を住民や親仁会と一緒に取組みが出来るようにしますので、今後もよろしくお願いいたします!

どうぞ、これからもよろしく
いたします!

